

さあ、2025年へ

募金事業実績報告 [2017年10月～2024年1月入金分]

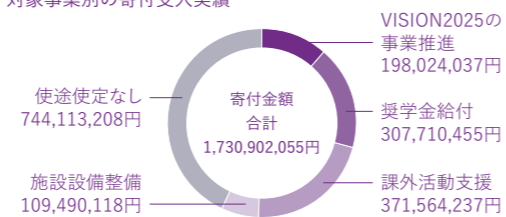
同志社大学では2017年10月より「同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金」の募集を開始し、これまでに卒業生、ご父母、法人の皆様や教職員など多方面から多大なご協力を賜りました。これも皆様の深いご理解の賜物と、厚く御礼申し上げます。

2017年10月～2024年1月の募金事業の実績について、下記のとおりご報告します。

□ 属性別の寄付受入実績

区分	寄付件数(件)	寄付者の実数	寄付金額(円)
個人	24,848	7,755	1,068,051,412
法人・団体	980	495	662,850,643
合計	25,828	8,250	1,730,902,055

□ 対象事業別の寄付受入実績



(受配者指定寄付の未配付分を含む) (「新型コロナウイルス感染症に伴う在学生支援募金」を含む)

PROGRESS REPORT 2020-2023

躍動する同志社大学

VISION 2025

DOSHISHA UNIVERSITY



学長インタビュー

INTERVIEW

学長 植木 朝子

COVID-19

新型コロナウイルス感染症への対応について

2020年4月1日に就任される直前から新型コロナウイルス感染症に関してパンデミック宣言が発出されました。着任直後の学内の混乱状況や春学期の授業への対応等についてお聞かせください。

2019年度は、教育支援機構長を兼務する副学長として、式典を担当していました。学長就任前の3月、前学長と共に2019年度秋学期卒業式と2020年度春学期入学式の中止を決めました。学長就任後すぐに緊急対策本部を立ち上げ、緊急事態宣言等、これまでに経験のない行政通達への対応を行いました。キャンパスへの入構は制限せざるを得ませんでした。学びを止めないため、2020年春学期授業を原則ネット配信授業で実施することを決めた後は、学生の受講環境整備、教員の配信環境整備の一環として、Wi-Fiルーターやパソコンの貸し出し、図書館の本の郵送サービスなどを開始しました。また、授業に関するアンケート調査を実施し、教員間で情報を共有して授業の改善につなげました。海外留学科目も中止せざるを得ませんでした。代替プログラムの提供など、関係の先生方は様々な工夫をしてくださいました。囑託講師の先生方を含め、学びの継続のためにご尽力くださった教職員の皆様のご苦労は並大抵のことではありませんでした。改めまして心より感謝申し上げます。さらに、コロナ禍の影響で家計が急変した学生の学びを継続するために、給付型奨学金を拡充いたしました。その財源として、教職員の皆様や卒業生の皆様から大変多くのご寄付をいただきました。あわせて衷心より御礼申し上げます。

感染症拡大予防のためのガイドラインを策定

し、感染状況に応じて、柔軟な対応を心がけましたが、クラブ活動や同志社EVE、クローバー祭などの行事は中止せざるを得ない状態が続きました。クラスター発生に対して、行動範囲の広い大学生がやり玉にあがるなど、やや行き過ぎた社会からのクレームもあり、学生たちは本当に辛い思いをしたと思います。学長メッセージとして学生たちに感染拡大防止につとめるように呼び掛け、学生自身による啓発活動を促すとともに、感染者への誹謗中傷を慎むべきことを社会にも訴えました。法人では、学生、教職員のみならず、地域社会への貢献としてワクチンの職域接種も実施されました。ご尽力くださいました関係各位に改めて御礼申し上げます。

全面ネット配信授業を続ける大学も多い中、2020年度秋学期からは、対面授業を開始し、科目数ベースで約半数に教室配当を行いました。この方針に対しては、感染拡大の状況に鑑み、すべての授業をネット配信にしてほしいという要望も寄せられました。時間や距離の制限から自由である、オンデマンド授業なら繰り返しの視聴が可能であるなど、ネット配信授業には多くの利点がありますが、視覚と聴覚を使うだけのネット配信授業に対して、実験・実習・実技科目や課題解決型科目に顕著にみられるように、嗅覚・触覚・味覚まで含めた五感すべてを活用できるのは対面授業の大きな利点です。また、大学教育は知識を提供することだけがすべてではありません。学生同士の白熱した議論の場を設けることも、さらにいえば正課との両輪である正課外活動の場を提供することも、大学の重要な役割だと考えて、対面授業をなるべく多く実施する方針を貫いた次第です。

コロナ禍で授業のICT活用、会議などの運営方法変更など大きな変革もたらされたことも事実です。これらの経験を今後どのように大学に生かされるのか、教えてください。

2020年度春学期の授業が全面ネット配信授業になった当初は混乱もありましたが、授業情報共有チーム開設によりグッドプラクティスを共有し、学生アンケートの結果なども踏まえて授業の改善につなげることができました。一般教室のAVシステム改修やe-classの増強を実施し、環境整備も進みました。ZOOMやTeams等オンライン会議システムは、教職員の会議に利用されるほか、リアルタイムでのオンライン授業にも活用されています。学生支援活動においては、AIチャットボット導入、オンラインによる施設予約等のDX化を進め、キャリアセンターでの就職相談方法は面接、電話に加え、WEBでも行うなど多様化を進めました。学内の事務作業においては、ワークフローシステムによる電子決裁を実施し、効率化を図っています。

コロナ禍で学んだネット配信授業の利点を生かし、2024年度からは新たな学年層を導入します。現在の授業は、半期15週で構成されており、教室での対面授業が基本ですが、新たな学年層では、通常の教室での授業は13週の授業期間に受講し、残り2週分の授業はオンデマンドで受講することを基本とします。オンデマンド授業を取り入れることで、いわゆる夏休み・春休み期間が長くなり、フィールドワーク、各種実習、インターンシップ、ボランティア活動等新たな主体的な学びの機会が生まれ、海外留学プログラムの充実や本学で展開される留学生プロ

グラムへの参加機会の増加が期待できます。また、先生方のまとまった研究時間確保の一助にもなるものと考えています。その導入に向け、「同志社大学「新たな学び」のための授業実施方針」および「授業実施のためのガイドライン」を策定しました。動画収録・配信システムとしては、新たにPanoptoを導入し、その使い方の説明動画の発信や講習会を行っています。

コロナ禍において、学生や教職員に向けて複数回の学長メッセージを発出されています。国文学者でもあり、言葉を大切にされる植木学長のメッセージにける思いを教えてください。

SNSの浸透、発達により、現在はかつてないほど多くの言葉が発信されている時代と言えるように思います。しかし、短く、刺激的な言葉が受け入れられやすい環境の中で、議論を単純化して、相手を「論破」することのみ価値を置くような極端な流れも出てきていることを危惧します。複雑な状況を複雑なままに受けとめ、曖昧なところを行きつ戻りつながら自分の考えを伝え、相手が何を言おうとしているのかを真摯に理解しようと努めることが大切だと考えます。言葉を大切にしたいのは、他者への理解を深めるために、それが必要だと思うからです。学長メッセージは一方的なものではありますが、学生さんや教職員の皆さんから肯定、否定両方のご意見が届くこともあり、それが大学運営を考えるためにとても貴重でした。ご意見をお寄せくださいました皆様に、改めて御礼を申し上げます。

DIVERSITY

ダイバーシティ推進について

ダイバーシティ推進宣言の制定をはじめ、「ダイバーシティの推進」に特に重点的に取り組んでられました。なぜダイバーシティが重要なのか、そして企業とは異なる大学におけるダイバーシティのめざすべき姿を教えてください。

同志社大学は「徳の共同体」を基礎とした「知の共同体」の構築をめざしてきた点で唯一無二の大学であり、これからもまたそうあり続けなければならないと思います。そのためには、教員と学生が形式的・機械的な関係を越えて、互いの良心を信頼し合い、真剣で自由な、そして人格的な知的交わりを積み重ねていかなければなりません。新島襄が「一人一人ハ大切ナリ」という言葉に込めたのは、そのような教育と研究の理想的共同体の実現であったと信じています。個人個人の多様な考えを尊重できる環境でこそ、学生の自由な学びと教員の自由な研究が成り

立ちます。本学のキャンパスを個がいつそう豊かに輝く場にするをめぐし、ダイバーシティ推進を重要課題の第一に掲げました。

日本におけるダイバーシティ政策は、2017年3月に経済産業省が作成した「ダイバーシティ2.0行動ガイドライン」に見られるように、経済の持続的成長にとって不可欠という視点からスタートしました。多様な人材の活躍が、少子高齢化の中で、グローバル化し多様化する市場のニーズやリスクへの対応力を高め、ダイバーシティ経営やイノベーション創出につながるというものです。こうした経済的効果から語られる多様性とは、自己の利益や結果を求める利己的なものですが、本当の多様性の尊重とは、誰も否定せず、異なる他者との共存を受け入れる、誰一人傷つけられず否定されない、多様であることが受容されるという利他的なものです。このようなダイバーシティの視点を持って、全人格教育をさらに充実させ、多様性と寛容に満ちた社会の構築に貢献できる人物を輩出したいという考えのもとで、取組を進めてきました。

「男女共同参画・ライフサポート」、「多文化共生・国際理解」、「障がい者支援」、「SOGI理解・啓発」を重点項目に掲げておられます。ご着任以降の進捗についてお聞かせください。

「男女共同参画・ライフサポート」に関しては、研究者のライフイベントによる休職からの復帰を支援する国内研究員制度(復帰支援)、育児と研究の両立を支援するリサーチライフ支援助成事業を整備しました。2022年度～2023年度の2年間で、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(調査分析)」を実施し、事業報告書を作成して成果を公開しました。この反響は大きく、他の私立大学からの問合せも相次いでいます。2021年度～2022年度には科学技術振興機構の女子中高生の理系進路選択支援プログラム事業に採択された「科学するガールズ」プログラムを実施し、2023年度からは「わたしのサイエンス」と名前を変えて継続実施しています。2022年9月、30% Club Japan大学グループ加入、2023年秋、男女共学実施100周年記念事業実施などにより、さらにダイバーシティ推進の機運を高めています。

「多文化共生・国際理解」に関する取組としては、2021年9月より、留学生と国内学生の混住型の教育寮「継志寮」が始動しました。2022年11月15日～12月31日にはレイシャル・ハラスメントについての研修会(オンデマンド配信)を開催しました。また創立150周年記念事業の一つとして、「国際主義の深化に向けた「人を植ゆる」の事業」を展開しています。「グローバルマインドを持つ人物の養成」をめざす本事業では目標として3つのテーマを掲げており、アメリカ、ヨーロッパ、アジアと全方面において更なる国際主義の深化を図っています。2023年10月にはテュービンゲン大学同志社日本研究センター30周年記念事業

実施に協力し、成功をおさめました。

「障がい者支援」に関する取組としては、2021年4月にスチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室(SDA室)を設置し、学生に対する合理的配慮についての制度を整えました。さらに大学が主催する企画に障がい者が参加する際の合理的配慮に係る制度設計を進めました。2022年9月には同志社大学文書作成要領を改訂し、学内業務文書におけるUDフォント使用を開始しています。また、情報保障の整備に係る据置型音声通訳システムCotopatを導入し、2024年1月には合理的配慮に関するSD研修会を実施しました。

「SOGI理解・啓発」に関しては、SDA室において多様なSOGIを持つ学生の支援を開始し、「性の多様性に関するガイド」を作成し、同志社レインボー映画祭を実施しました。「性の多様性に対する基本方針」を定め、同方針を踏まえた性別情報収集に関する対応策も策定しています。また法人に働きかけ、2023年度から同志社パートナーシップ制度も導入しました。

短期間にこれだけ多くの取組を進めることができたのは、ひとえに教職員の皆様のご尽力があったからです。重ねて衷心より御礼申し上げます。

ダイバーシティ推進関連科目を設置し、さらには植木学長自らもご担当されていることで、他大学からも注目されているとお聞きしています。科目にける先生の思いを教えてください。

私たちは、気の毒だと思ふ立場の人や問題を抱えた人、自分と似たような意見を持っている人々に対して、自然に共感することができます。自分で努力をしなくても自然に出てくる、感情的な共感であるところのシンパシーです。しかし、ダイバーシティ推進のためにはそれだけでは不十分であって、自分と違う理念や信念を持つ人や、気の毒だとは思えない立場の人々が何を考えているのだろうかという想像する力、すなわちエンパシーが必要です。エンパシーは感情的なものではなく、理性的な知的な作業と言ってよいでしょう。国籍、文化、性別、性的指向・性自認、障がい、宗教などの多様性に関することを、学問的に学ぶことによって、知識を持って多様性を理解できるエンパシーを身につけられるのです。この科目ではエンパシーを身につけた学生を育てるため、15回の授業を各分野の第一線で活躍している先生に担当していただいております。

マイノリティへの理解を深める前に、自分が当たり前のように享受しているマジョリティの特権に気づくことが最も重要です。これは苦しいことではありますが、私の授業に対する学生さんのコメントからも、特権に対する罪悪感に苦悩しながら課題に向き合ってくれている様子が窺われ、大変心を打たれました。

driving DIVERSITY

A Four-Year Journey

ダイバーシティ・キャンパスの推進

同志社大学は、「一国の良心とも謂ふ可き人々」の養成を掲げた創立者・新島襄の志を受け、「良心教育」を建学の精神としています。19世紀末に「良心」という訳語を与えられた英語のconscienceの原義は、「共に知る」ということです。我々は、「良心教育」の実践による多様性と寛容に満ちたキャンパスで、異なる考え方や価値観を共に知るにより、本学構成員が互いを理解し合い、一人ひとりを大切に思うことができる機会を創出してきました。このことは、同志社創立10周年記念演説において、「諸君ヨ、人一人ハ大切ナリ」の言葉を残した新島の思いに通じています。上記のような建学の精神と歴史とを踏まえ、自身と異なる価値観や境遇を持つ他者を理解し、共生、共存する中で、その違いを新たな創造へ導く力を持つ人物を養成するため、本学はダイバーシティを推進しています。

CASE #01

ダイバーシティ推進宣言とダイバーシティ推進委員会の設置

大学は個人個人の多様な考えを尊重できる環境でなければなりません。それが学生の自由な学び、教員の自由な研究を促進します。また、多様な人物の交流で学術研究の活性化が進み、新たな知が創造されます。こうした背景から、個が豊かに輝くダイバーシティ・キャンパスの実現をめざすべくダイバーシティ推進宣言を制定。また、ダイバーシティ推進に係る分析、改善および施策の検討を目的として、同志社大学ダイバーシティ推進委員会を設置しました。

CASE #02

本学におけるダイバーシティ推進にかかる現状把握のための調査実施と分析

本学のダイバーシティ推進の課題の洗い出しをした上で政策に反映させるため、「本学におけるダイバーシティ推進の現状調査」、「学部・研究科、各機構その他組織における取組に関する調査」、「教職員を対象とした実態把握のための調査アンケート」の3点を実施。各種統計情報を整理した資料の作成や、本学の各組織の取組状況の把握とグッドプラクティスの共有、本学に勤務する教職員のダイバーシティ推進に関わる意識、実態やニーズ、ダイバーシティ推進に対する不安や疑問を含む率直な意見を把握することができました。

CASE #03

2021年度文部科学省科学技術人材育成補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(調査分析)に採択

2021年度、本学と上智大学は文部科学省科学技術人材育成補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(調査分析)」に採択されました。この事業では、国際性を追求する両大学が連携し、海外先進校の取組を調査。女性研究者の研究力向上やキャリアパス支援に焦点を当て、現状分析と共に国内外の先進的な事例を調査しました。ハーバード大学、スタンフォード大学(アメリカ)、チュービンゲン大学(ドイツ)、マヒドン大学(タイ)、T.I.M.E(Top International Managers in Engineering)Association加盟校等の活動を参考に、女性研究者の活躍環境について整理しました。調査の結果、私立大学特有の課題やダイバーシティ推進におけるハードルを洗い出し、「同志社モデル」と「上智モデル」の導入事例をまとめました。

CASE #04

研究者のライフイベントおよびワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の改善・整備

研究者のライフイベントやワーク・ライフ・バランスに配慮し、「研究者に対する復帰支援制度」を導入。出産・育児・介護による中断後、職場復帰をサポートしています。また、「リサーチライフ支援助成事業」では、教員が妊娠や育児で研究活動が難しい場合、助成金を受けてリサーチ・アシスタント等を雇用することにより、研究を継続できるようサポートしています。

CASE #06

ダイバーシティ推進科目の新設

2023年4月から全学共通教養教育科目にダイバーシティ推進科目である「同志社の良心とダイバーシティ」(秋学期・オンデマンド科目)を設置し、多様な生き方と価値観を尊重し、他者の立場に立って考えることができる人物の育成をめざします。授業の構成として、ダイバーシティの総論から入り、性の多様性、ジェンダー平等、多文化共生、障がい者支援という4分野の各論を取り上げています。

CASE #05

男女共学実施100周年記念事業の実施

本学は1923年に女子学生を受け入れ、2023年で男女共学100周年を迎えました。2023年10月に開催された「男女共学実施100周年記念シンポジウム」では、資生堂会長の魚谷雅彦氏が「未来をつくるダイバーシティ経営」について講演。本学加盟の「30% Club Japan」も紹介されました。同時にハリス理化学館同志社ギャラリーでは10月3日から11月28日まで特別企画展が行われました。

CASE #07

性の多様性に対する基本方針の策定

本学は「良心教育」に基づく多様性と寛容を追求するキャンパスです。異なる考えや価値観を共有し、互いを理解し、大切にできる機会を提供しています。2020年度に制定した「同志社大学ダイバーシティ推進宣言」では性の多様性にも焦点を当て、全構成員が相互に尊重し合いながら協力し学び、共に働くキャンパスを築くことをめざします。

CASE #08

UDフォントの使用

本学は文書作成要領を改定し、2022年9月から学内の業務文書にはUD(ユニバーサルデザイン)フォントを採用しています。また、株式会社モリサワの「UDデジタル教科書体」を含むUDフォントに関するセミナーを開催。具体的な例を交えながら発達障がい児の視点や広く読者にとって理解しやすいフォントの開発工夫を紹介しました。

CASE #09

大学が主催する企画に障がい者が参加する際の合理的配慮に係る制度設計

2024年度施行の改正障害者差別解消法への対応として、本学や教職員が主催する講演会・イベントにおいては、配慮を希望する対象者に対する告知文を用い、希望があれば合理的配慮を提供するなど対応方針を整えました。

CASE #10

字幕表示システムをSDA室に導入

聴覚障がい者への新たな情報保障の対応として字幕表示システムCotopat(京セラ株式会社)を導入。音声をリアルタイムで字幕化し、視覚情報として可視化することで、発話者の表情を見ながら発話内容をほぼ同時に把握できます。障がい学生だけでなく、全体のアクセシビリティ向上に寄与し、ダイバーシティ理解や知的好奇心の促進が期待できます。

その他の取組は
ダイバーシティ推進サイトをご覧ください



COVID Epoch

激動のコロナ禍を歩む同志社

2020

全国の状況(文部科学省の要請含む)

- 1 Jan. ■ 新型コロナウイルス感染症患者を国内で初確認
- 2 Feb. ■ WHOが「緊急事態宣言」発表
■ ダイヤモンド・プリンセス号でのクラスター
■ 国が新型コロナウイルスを指定感染症に認定
- 3 Mar. ■ 全国規模のイベントの中止、延期、規模縮小等の対応要請
■ WHOがパンデミックを宣言(3/12)、東京オリンピック延期決定
■ 新型インフルエンザ等対策措置法の改正、感染症対策の基本的対処方針の策定
■ 令和2年度における大学等の授業の開始等についての通知
- 4 Apr. ■ 世界の死者が10万人を超える
■ 7都道府県に「緊急事態宣言」を発令
■ 「緊急事態宣言」の対象区域の変更
■ 選抜高等学校野球大会の中止
- 5 May. ■ 「緊急事態宣言」をすべて解除
- 6 Jun. ■ 世界の感染者が累計1千万人を超える
■ 接触確認アプリCOCOAの提供開始
■ 大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドラインの公表
■ 令和3年度大学入学者選抜実施要項の周知
■ Go To トラベル開始
■ 本年度後期や次年度の各授業科目の実施方法に係る留意点の周知
- 7 Jul.
- 8 Aug. ■ 世界の累計感染者数が2千万人に達する
■ 全国高等学校野球選手権大会の中止
- 10 Oct.
- 9 Sep. ■ 欧州に第2波到来、国内感染者数累計10万人超え
■ 大学等における本年度後期等の授業の実施と新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の周知
- 11 Nov. ■ 全国の1日の感染症患者数が初めて2,000人を超える
- 12 Dec. ■ 世界の新型コロナウイルスの感染者が累計で7千万人を超える
■ 変異種が出現

【新型コロナウイルス感染症について】

新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス)による急性呼吸器症候群である。(以下「COVID-19」という)

同志社大学の主な対応

第1回リスク管理本部会議開催、第1報発令(海外渡航への注意喚起)、保健センターからの注意喚起
2019年度卒業式・学位授与式の中止を決定
消毒液を学内各所に配備

今後の行事・イベント等への対応について(感染リスクへの対応)発表、2020年度学部入学式および大学院入学式の中止を決定、海外(感染者確認国・地域)から帰国・来日後14日間の不要不急の外出は控える等の要請、4/20までの対面授業や行事、イベントの中止を決定
緊急対策本部を設置、第6報発令(対面授業の開始日を5/12に延期)、学長メッセージ発令(新学期に向けて)、第7報発令(4/13~5/11のキャンパス入構制限および5/12以降の春学期の授業を原則ネット配信で実施)、学長メッセージ発令(学生、保護者、科目担当者に向けて)、新型コロナウイルス感染症に係る緊急対応策決定、職員等の在宅勤務の許可、カウンセリングセンター電話相談開始
第8報発令(5/12~5/31のキャンパス入構制限、大学各窓口閉鎖)、学長メッセージ発令(学生に向けて)、感染防止に関するフローチャートの作成、第9報発令(学生のキャンパスへの入構の一部緩和)、図書館図書の郵送サービス実施、Wi-Fiルータ貸出、オンライン正課外活動に関するガイドライン(暫定版)策定
第10報発令(秋学期からの同志社大学版新型コロナウイルス感染症拡大予防のためのガイドライン策定)、ネットワークプリントサービスの提供

第10.1報発令(秋学期に向けた移行期間フェーズ2における措置)、第10.2報発令(同フェーズ3およびフェーズ4における措置)、第11報発令(新型コロナウイルス感染症拡大予防のためのガイドライン策定)、感染者が学内で発生した場合の対応基準の策定、パーティション設置
学長メッセージ発令(学生に向けて)、同志社大学および大学院奨学金の特別枠の募集、カウンセリングセンターWEB相談開始

入学記念会の動画配信、第11.1.1報発令(新型コロナウイルス感染拡大に対する同志社大学の活動レベル基準周知)、学長メッセージ発令(学生に向けて)、授業情報共有チームの開設、教室定員をコロナ定員とし対面授業を再開(授業形態を対面とネット配信の2形態で実施)、文部科学省私立大学における新型コロナウイルス感染症対策の好事例で紹介、授業支援システムe-classの増強
第11.1.2報発令(新型コロナウイルス感染拡大防止の手引き更新)
学長メッセージ発令(ラグビー部クラスター発生を受けて)

2021

全国の状況(文部科学省の要請含む)

- 1 Jan. ■ 1都3県に2度目の「緊急事態宣言」を発令
■ 2府5県を「緊急事態宣言」の対象地域に追加
- 2 Feb. ■ 時短営業や入院の拒否に過料を科する改正インフルエンザ等対策特別措置法と改正感染症法が成立
■ ファイザー社ワクチンの薬事承認および医療従事者へのワクチン接種開始
- 3 Mar. ■ 「緊急事態宣言」を全面解除
- 4 Apr. ■ 初のまん延防止等重点措置を実施
■ 東京と関西の計4都府県に3度目の「緊急事態宣言」を発令
■ 政府がデルタ株の国内感染事例を発表、国内の累計死者数1万人を突破
■ 大学等における遠隔授業の取扱いについての周知
- 5 May. ■ 「緊急事態宣言」の対象を、愛知・福岡を含む6都府県に拡大
■ 「緊急事態宣言」の対象を、北海道・岡山・広島を含む9都道府県に拡大
■ 「緊急事態宣言」の対象を、沖縄を含む10都道府県に拡大
- 6 Jun. ■ 沖縄を除き3度目の「緊急事態宣言」を解除
■ ワクチンの職域接種開始
■ 令和4年度大学入学者選抜実施要項の周知
- 7 Jul. ■ 沖縄に発令中の「緊急事態宣言」を東京にも拡大
■ 東京オリンピック開幕
- 8 Aug. ■ 「緊急事態宣言」の対象を6都府県に拡大
■ 「緊急事態宣言」の対象を13都府県に拡大
■ 「緊急事態宣言」の対象を21都道府県に拡大
- 9 Sep.
- 10 Oct. ■ 「緊急事態宣言」をすべて解除
- 11 Nov. ■ 政府がオミクロン株の急拡大を受け、外国人の新規入国を原則禁止と発表
■ 新型コロナウイルス感染症対策の新基本的対処方針の決定
- 12 Dec. ■ ワクチンの3回目接種開始

同志社大学の主な対応

第12報発令(ガイドライン改定)、学長メッセージ発令(緊急事態宣言を受けて学生・教職員・受験生に向けて)
ネット配信授業実施に関するガイドライン(暫定版)の策定
2021年度における本学の教育に関する基本方針の策定、学長メッセージ発令(卒業式・学位授与式にあたって)、学長メッセージ発令(新学期に向けて)
2020年度生(新2年次生)対象の入学式を実施、第14報発令(緊急事態宣言の発令に伴う対応)、学長メッセージ発令(京都府のまん延防止等重点措置適用を受けて)、教室定員をコロナ定員で継続

PCRモニタリング調査(今出川)実施、臨時学生調査の実施、学内に検温スポットを設置

第15報発令(緊急事態宣言解除後の対応)、PCRモニタリング調査(京田辺)実施

コロナ感染防止啓発キャンペーン実施、第1回・第2回ワクチン職域接種(法人にて実施)
第17報発令(緊急事態宣言の発令に伴う対応)、学長メッセージ発令(夏期休暇に向けて)

コロナ感染防止啓発キャンペーン第2弾実施、CO₂濃度測定器を教室に配備
第20報発令(緊急事態宣言解除後の対応)
コロナ感染防止啓発キャンペーン第3弾実施、学長メッセージ発令(学生に向けて)

2022

- 1 Jan. ■ 京都府で4度目のまん延防止等重点措置を実施
- 2 Feb.
- 3 Mar. ■ 令和4年度の大学等における学修者本位の授業の実施と新型コロナウイルス感染症への対策の徹底等に係る留意事項の周知
- 4 Apr.
- 6 Jun.
- 10 Oct.

第21報発令(京都府へのまん延防止等重点措置への対応)
学長メッセージ発令(新学期に向けて)
第22報発令(ガイドライン改定)、第3回ワクチン職域接種(法人にて実施)、学長メッセージ発令(学生・合格者に向けて)
教室定員を試験定員に緩和
第23報発令(ガイドライン改定)
第24報発令(ガイドラインおよび感染拡大防止の手引き更新)

2023

- 3 Mar.
- 4 Apr. ■ 基本的対処方針の廃止
- 5 May. ■ 感染症法の位置づけを2類から5類へ移行
■ 5月7日までの国内感染者数累計3,379万人

第25報発令(ガイドラインおよび感染拡大防止の手引き廃止)
同志社大学COVID-19感染防止対策の策定、教室定員を通常定員の8割に緩和

学びのかたちの新展開

コロナ禍を経て、先進的なデジタル技術を活用した学修目的に応じた教育の検討、ポストコロナにおける対面・オンラインそれぞれの長所を生かした教育内容・方法の検討を通して、教育のデジタルトランスフォーメーションを推進し、学生の多様な学びを実現する新たな教育のかたちを構築します。

achievement 1



多様な教育活動に対応できる 新たな学年暦編成



2024年度から教室での面接授業(対面授業)を基本としながら、オンデマンド型授業を活用する新学年暦を導入します。学期始めの1週間は、履修科目登録を行うオリエンテーション期間と初回のオンデマンド型授業が並行する期間となります。この1週間を「Doshisha Opening Week(DO Week)」と呼び、本学学生の「新しい学び」がスタートします。新学年暦では、従前からの15週の授業期間は維持しますが、1週目を含む2週分の授業をオンデマンドで実施することにより、夏期休暇期間と春休

み期間をより長く確保できます。学生は、この長期休暇期間を積極的、計画的に活用することで、海外留学、フィールドワーク、各種実習、インターシップ、ボランティア活動等、より主体的に学びの機会を作り出すことができます。また、13週の面接授業に相乗効果が現れることや、教員の研究時間の確保も期待できます。これらの成果が社会人教育、産・官・地域と連携して実施する教育等、新たな時代にふさわしい学びのかたちの実現へとつながることを期待しています。

achievement 2

同志社データサイエンス・AI教育プログラム(DDASH)始動

社会の要請でもある「デジタル人材」の養成に関して、数理・データサイエンス・AIに関する新たな全学教育プログラム(DDASH/ディーダッシュ: Doshisha Approved Program for Data science and AI Smart Higher Education)を開始しました。リテラシーレベル(DDASH-L)(2022年度開始)と、応用基礎レベル(DDASH-A)(2023年度開始)に分けて展開。DDASH-LとDDASH-Aで身

につけた知識技能や応用基礎力に加えて、各学部の専門分野における数理・データサイエンス・AIの専門知識やその活用方法を習得することを修了の要件とする、DDASH副専攻プログラム(2023年度開始)も提供しています。



achievement 3

新たな英語のカリキュラムの始動

2022年度から、これまで受け継がれた英語教育の伝統をさらに発展させ、多様化する学生のニーズにフレキシブルに対応し、自律した外国語学習者を育てるべく、新たな学習スタイルを要する英語のカリキュラムをスタートしました。新カリキュラムは、本学の教育理念に基づき、ヨーロッパ言語参照枠

(CEFR: Common European Framework of Reference for Languages)およびヨーロッパ言語ポートフォリオ(ELP: European Language Portfolio)における外国語の学習・教授・評価に関する考え方を参照し、編成しています。



achievement 4

同志社大学、NTT西日本、NTT EDX 教育・学習活動への生成AI活用 実証事業スタート!

～教育・学習向け生成AIを活用した
新たな「教えと学び」の仕組みづくり～



西日本電信電話株式会社、株式会社NTT EDXとの共同により、生成AIを活用した教育・学習支援に関する実証の事業を開始し、学生個別の学習ニーズに最適化された学習環境を提供する仕組みづくりに取り組んでいます。

Other achievements

- 北海道大学大学院医学研究院と同志社大学大学院脳科学研究科との間における特別研究学生交流協定書を締結
- 名古屋市立大学大学院医学研究科と同志社大学大学院脳科学研究科との交流協定書を締結
- 学校法人同志社同志社大学と大学共同利用機関法人人間文化研究機構とのグローバル地域研究に関する研究協力協定を締結
- 大阪大学と同志社大学との間における単位互換に関する協定書を締結
- 北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科と同志社大学大学院生命医学研究科との間における特別研究学生交流協定書を締結
- 同志社大学大学院アドバンスド・リベラルアーツ科目群および「次の環境」協創コースを開設
- 高等研究教育院における科目等履修生を受入
- 同志社大学リカレント教育に関する方針を策定
- 一般財団法人オープンバッジ・ネットワークへの加盟およびバッジの発行
- DNX Venturesアントレプレナーシップ育成寄付講座を開設
- カリキュラムマップ、カリキュラムツリーの作成
- 文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に認定
- アカデミックスキルセミナーの開催
- 動画収録・配信システム「Panopto」の導入
- 全学共通教養教育科目(自然・人間科学系科目)の新設
- 全学共通教養教育科目「法学1・2」、「政治学1・2」の再編
- 日本経済新聞社協力による全学共通教養教育科目(キャリア形成支援科目)「SDGsで考える社会課題とキャリア形成」[「メガトレンドを読む」]の開設
- 同志社大学「新たな学び」のための授業実施方針および「授業実施のためのガイドライン」策定
- 「カーボンサイクル共同研究デザイン連携講座」(正規科目)開設

キャンパスライフの質的向上

一人一人を大切にしたい同志社の風土の上で、学生一人ひとりが個性を發揮して輝けるキャンパスを実現するために、Diversity, EquityそしてInclusionをキーワードに新たなミッションに向かいます。

achievement 1

学生支援活動におけるDXの推進

新型コロナウイルス感染症拡大以降、学生の諸活動がオンラインへ移行する場面が増えたことに伴い、利便性や即時性への対応を行うべくAIチャットボット相談を導入し、運用を開始しました。24時間365日対応可能な窓口として、履修登録の流れ、課外活動、アルバイト、奨学金、寮、キャリア、大学施設等、学生支援分野全般に関する問合せに自動回答します。また、対応状況をモニタリングし

ながら随時回答精度の改善にも取り組み、問合せ状況を踏まえて学生生活以外の問合せにも領域を広げる予定です。他にも、学生支援センターにおける学生団体の施設予約、申請書類提出等の業務対応をオンラインで実現することを目的に、オンラインシステムを新たに導入するなど、最新のICT技術を活用し、業務改善およびサービスの質向上を図っています。



achievement 2

同志社大学学生ダイバーシティ・アクセシビリティ支援室の設置

大学は、自身と異なる価値観や境遇を持つ他者を理解し、共生・共存する中で、その違いを新たな創造へ導く力を持つ人物を養成する必要があります。これをより明確に社会へ発信するために、2020年度に「同志社大学ダイバーシティ推進宣言」を制定しました。本学は早くから障がい学生支援の分野で、先進校として日本の高等教育機関を先導的な立場で牽引してきました。2000年に障がい学生支援制度を制定、2008年には障がい学生支援室を設置し、身体に障がいのある学生の支援を、また、2013年にはカウンセリングセンター特別支援オフィスを開設し、精神、発達に障がいのある学生への支援を行ってきました。さらに、学生のダイバーシティ推進という観点から、身体、精神等の障がいの種別を問わず、シームレ

スに対応する総合窓口が必要と判断し、これまでの障がい学生支援室と特別支援オフィスの機能を統合し、2021年4月に学生ダイバーシティ・アクセシビリティ支援室(SDA室)を開室しました。SDA室の目的は2点あり、1点目は、身体、精神等に障がいのある学生の支援です。2点目は、多様な性的指向・性自認を持つ学生の支援です。本学でも、SOGI(性的指向: Sexual Orientationと性自認: Gender Identity)の受け皿を設置する必要があるとの思いから、窓口の設置に至りました。個々の学生が、学生生活を送る上で必要かつ適切な支援と機会を得られるよう、また学生が相互に多様な人格と個性を尊重し合いながら共生できるよう、全学的協力体制を推進することをさらなる目的としています。

Other achievements

- 京都市と同志社大学とのふるさと納税を活用した大学・学生と地域の連携強化等に関する協定締結
- 同志社大学寄付奨学金表彰式にて学生を表彰(2020年～2023年度実績:表彰者86人、支給額8,600,000円)
- 同志社大学育英賞表彰式にて学生を表彰(2020年～2023年度実績:表彰者380人、支給額112,941,600円)
- 自然災害による被害に伴う学費等減免の特別措置(2020年～2023年度実績:対象2人、支給額455,000円)
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて厳しい経済状況にある世帯の学生を対象とし、「同志社大学奨学金(特別枠)」および「同志社大学大学院奨学金(特別採用)」を設定
- 同志社大学育英奨学金における企業名を冠した奨学金の設定
- 2020年度から開始された高等教育の修学支援新制度への対応および2024年度からの奨学金制度改正に伴う対応
- 食堂等福利厚生施設内の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策
- 24時間販売可能パン自動販売機の設置
- キッチンカーの試験的導入
- 同志社大学体育会表彰式にて学生を表彰
- 体育会重点強化クラブ制度選考基準
- 体育会各部からの本学スポーツ施設整備に対する寄付申し入れに関する申合せ制定

- ストレングス・トレーニング施設設置
- 体育会向けコンプライアンス研修会の実施
- スポーツ推薦等入学者への修学支援実施
- 大学配分補助金およびスポーツ特別補助金の制度変更
- 女子トイレに生理用ナプキンを常備
- 同志社大学障がい学生支援の基本方針制定
- ネット配信による授業における合理的配慮の実施
- ランチタイム手話の開催
- 障がい学生支援制度発足20周年企画展
- 性の多様性に関する調査の実施
- 教職員向け講演会「性暴力と同意・人権～被害者も加害者も出さないために～」(2022年12月8日開催)実施
- 両校地SDA室に字幕表示システム「Cotopat」(京セラ株式会社)を設置
- 学生ボランティア活動推進にかかる公益財団法人日本財団ボランティアセンターとの協定締結
- フードバンク食品配布会



achievement 3

継志寮(教育寮)の始動

2021年9月に本学初の教育寮である継志寮が始動しました。人種、性別、障がいの有無、文化等の様々な違いや背景がある学生が混住・交流する環境を形成し、多文化共生、地域社会との異世代共生を実践する生活を通して多様な価値観を理解し合い、その違いを新たな創造へ導く力を持つ人物の養成をめざします。また、地域社会との関わり等を通じた実践学習に参加し、その成果の発表や振り返りを通して自己の成長を確認する取組として、継志寮では寮生全員が参加するResidential Learning Program(RLP)を設けています。さらに継志寮のドミトリー・アシスタントを在寮生から選ぶことで、寮生間で循環型のリーダー養成をめざします。

achievement 4

キャリア支援における 新たな活動の展開

コロナ禍を経て、キャリアセンターはこれまでの対面での就職相談に加え、WEB・電話による相談にも対応するなど、より充実した体制を構築しました。また従来、企業向けに実施していた就職懇談会を新たにキャリアセミナーとして開催し、本学の現状報告に加え、本学の校友をお招きし、同志社の魅力を語っていたくなどより充実した内容としました。加えて、キャリアセンターのYouTubeを新設しました。校友で特別顧問(東京担当)でもある作家の佐藤優氏、東京五輪・金メダリストの宇山賢氏からの在学生へのメッセージをはじめ、プロモーション動画も作成しています。同サイトにおいて、引き続きキャリア支援に関する有益な情報を発信するとともに、就職に強い大学のブランディングに寄与していきます。

- ウォーターサーバー設置
- 自転車運転マナー講習会
- 自転車・バイク運転マナー講習会
- 成年年齢引き下げに伴う啓発セミナーの実施
- 卒煙ブース(スポット)の設置、禁煙外来補助、卒煙応援フェア開催
- レインボー映画祭の実施
- 性の多様性に関するガイドの発行
- 教職員向け講演会「苦境にある学生を支援するということ」(2021年3月11日開催)実施
- 教職員向け講演会「ポストコロナの学生相談」(2022年2月17日開催)実施
- 教職員向け講演会「トラウマ・インフォームドケアとは何か～青年期のトラウマの理解と支援～」(2023年2月16日開催)実施
- 教職員向け講演会「こころの今を理解する～Z世代の誠意とは～」(2024年3月7日開催)実施
- 留学生就職支援コンソーシアム SUCCESS への入会
- 就職支援協定締結(島根県、福井県、新潟県、宮城県、兵庫県)
- キャリアスUCの導入
- オンライン形式での学内企業説明会の開始

創造と共同による研究力の向上

多様な分野・領域で研究対象としている総合大学の長を生かして社会的課題を多角的に捉えて追究し、その研究成果を通して社会に貢献します。特に、複数の異なる分野の研究者が共通の研究課題について、連携、交流を図り、多様な研究の存在を可視化するほか、大型外部資金の獲得や新たな研究体制の構築への導きにより、新たな融合研究を創造します。

achievement 1

同志社大学カーボンリサイクル教育研究プラットフォームの設置



2021年6月、持続可能な社会構築のための「カーボンリサイクル」をテーマとした産官学の連携を基軸にして、教育、研究および研究成果の社会実装を推進すること、そしてCO₂を炭素資源と捉えて再利用するための技術開発を行い、地球温暖化問題解決のために貢献することを目的とした「同志社大学カーボンリサイクル教育研究プラットフォーム」を設置しました。本プラットフォームでは、同志社大学の教育原点である「良心教育」に基づき、社会人と学生が共修する「『次の環境』協創コース」と連携し、環

境問題に果敢に取り組む未来の「社会イノベーター」を育みます。また、国立研究機関・自治体・企業などと連携し、複雑化する環境・エネルギー問題に取り組むための情報交換の仕組みとして2022年6月1日に本プラットフォームに「技術フォーラム」を設置しました。本フォーラムでは、情報交換だけではなく、社会・産業ニーズや技術シーズ等の課題共有、課題解決に向けた連携および研究成果の利用促進も図っており、本プラットフォームで発生した知的財産に関する情報も共有しています。



achievement 2

All Doshisha Research Modelの創出

様々な学問領域で800人超の研究者が学術研究を進めている総合大学の特色を生かし、文理融合や領域横断による融合研究を創出する「All Doshisha Research Model」によって、社会課題の解決につながる研究成果の創出をめざします。本スキームにおいて、個々の斬新かつ興味深い研

究テーマの発掘とともに、大学の持ち味を存分に生かし、あらゆる立場や領域から、社会課題を多角的に捉え集約し、価値ある方向性を含む内容として、広く社会へ情報発信できるよう努めます。さらに、大型外部資金の獲得や新たな研究体制構築の可能性を導いていくことも視野に入れています。

achievement 3

若手研究者の育成

2023年6月に同志社大学における若手研究者の育成方針を策定し、若手研究者一人ひとりが高い意欲を持って、その能力を十分に発揮し、質の高い研究活動に安心して取り組める環境を確保することを定め、日本学術振興会「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」に登録して、日本学術振興会特別研究員(PD等)に採用された優秀な若手研究者が、安定して自身の研究に取り組める環境を整備しました。また、本学では若手研究者の奨励策として、文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」博士後期課程

次世代研究者挑戦的研究プログラム」に採択されており、またその後継事業に引き続き応募をしています。リサーチ・アシスタント制度や日本学術振興会特別研究員等の雇用支援事業導入などの若手研究者育成支援策と併せ、制度の発信にも力を入れるべく、博士人材育成支援の特設サイトも作成しました。さらに教育面においても、アドバンス・リベラルアーツ科目群を設置することにより、研究者としてだけでなく、社会で求められる基盤的な能力を専門分野の学びとは異なる視点から身につけることのできるプログラムを設けています。

achievement 4

国際的教育研究拠点形成支援事業の始動

学際的研究拠点、中核的研究拠点、先端的教育研究拠点における研究センター活動実績をもとに、国際連携による研究の飛躍的な発展に加え、研究活動を通じた若手研究者(博士課程(前期・後期)に在学する大学院生、ポストドクター等)の育成および次世代の研究者を養成する教育プログラム(研究融合型

教育プログラム)の開発に資する活動を支援することを目的として国際的教育研究拠点形成支援事業を開始しました。同事業により、研究の組織化・高度化をめざすとともに、教育プログラム(教材・コンテンツ・教育手法等)を開発し、研究プロジェクト終了後も持続的な教育活動面への展開が期待されます。

Other achievements

【研究プロジェクト等の実施】

- All Doshisha Research Model 新型コロナウイルス感染症に関連する緊急研究課題(COVID-19 Research Project)実施(2021)
- All Doshisha Research Model 2025「『諸君よ、一人一人大切に!』同志社大学SDGs研究」プロジェクト実施(2022~2024)
- 国際的教育研究拠点形成支援事業実施(2023)

【研究環境の整備・若手研究者育成支援】

- 研究力向上に係る学内計画策定(2022)
- 博士キャリアデザインガイダンスの開催(2022)
- 同志社大学における若手研究者の育成方針策定(2023)
- 研究機関で雇用する特別研究員-PD等の育成方針策定(2023)
- リサーチ・アシスタント支援助成事業の実施(2023)
- 同志社大学研究データ管理・公開ポリシーの制定(2023)
- 研究データ管理基盤(GakuNin RDM)の導入(2023)

【産官学連携等】

- 京都クオリティフォーラムへの参画(2021)
- 「教育研究プラットフォーム」および同志社大学カーボンリサイクル教育研究プラットフォームの設置(2021)
- カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリションへの参画(2021)
- 関西スタートアップアカデミア・コアリションへの参画(2022)
- 産官学連携を支援するための制度の継続および新しい制度整備(2022)
- TOYO TIRE株式会社と包括連携協定締結(2023)(予定)

【採択等】

- 科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(調査分析)」採択(2021)
- 科学技術振興機構「次世代研究者挑戦的研究プログラム」採択(2021)
- 文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」採択(2022)
- 日本学術振興会「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」登録(2023)
- 科学技術振興機構 大学発新産業創出基金「スタートアップ・エコシステム共創プログラム」(関西スタートアップ・コアリションの共同機関として参画)採択(2023)

「志」ある人物の受入れ

世界中から優秀で多様な背景を持つ学生を受入れるため、入試制度改革に取組みます。国際的教育プログラムや語学検定を活用する入試、海外修学経験者入試等のほか、生徒のこれまでの努力や実績、意欲を評価する入試を導入します。

achievement 1

法人内高校生の大学開設科目履修制度の創設



修生として本学正課科目の履修を認める制度を創設しました。具体的な科目として、全学共通教養教育科目の「データサイエンス概論」を提供しています。この科目は、「同志社データサイエンス・AI教育プログラム」の基本となる必修科目であり、文系・理系を問わず、今後、社会で必要となる素養を身につけるための

高校在学中から大学設置科目を履修することは、高校生がより高い目的意識をもって本学へ進学することにつながり、一貫教育のさらなる深化と連携強化、ひいては同志社のブランド力の向上にも大きく寄与することから、法人内高校生に科目履修

科目となります。開講形態もオンデマンドによる配信授業となっており、高校生の履修にあたって高校の授業や部活動との重複を避けることが可能となります。この制度により意欲ある法人内諸学校の高校生に大学での学びを早期に提供しています。

achievement 2

「キリスト教主義学校の連携ネットワーク」の高等学校との高大接続プログラムを実施

「キリスト教主義学校の連携ネットワーク」の高等学校との高大接続プログラムを新たに開始しました。同じキリスト教主義教育を重視する高校同士、地理的な違いや生活環境等の違いを含めて多様な価値観を持つ多くの高校生がオンラインでつながり、参加者同士の相互交流、相互啓発を促進させるとともに、参加者一人ひとりが大学で学ぶ意

味、学問の持つ奥深さと幅広さを体感できるプログラムとしています。対面とオンラインを併用したハイフレックス型プログラムの形式を採用し、会場提供に協力いただいた高等学校に本学講師が出向き授業を行い、同内容のプログラムをオンライン形式で他の高等学校に配信することで高校生間の相互交流も生まれつつあります。

Other achievements

- 「学部入試情報サイト」リニューアル、「同志社生のリアル」新たに設置
- 入学センター公式YouTubeチャンネルの開設
- 入学センター公式LINEの運用開始
- 「キリスト教主義学校の連携ネットワーク」進路・入学担当会議の開催
- 自然災害による被害に伴う入学検定料減免の特別措置
- 能登半島を中心とした地震・津波で被災した受験生に対して出願期間終了後に相談期間を別途設定(2024/1/12~2024/1/17)
- 高校生に学部選択の機会を与えることを目的とした「大学入学準備講座」を開講(2020年度14講座、2021年度14講座、2022年度14講座、2023年度14講座) ※オンデマンド配信含む
- 高校生「志」コンテストを開催(2020~2023年度実績: 237校参加、723作品応募)
- 上海日本人学校高等部協力大学説明会に参加
- 春のキャンパス見学会を開催(2020~2023年度実績: 7,141人参加)

- 春の入試説明会を全国8都市で開催(2020~2023年度実績: 4,977人参加) ※オンライン含む
- 秋の入試説明会を全国9都市で開催(2020~2023年度実績: 6,814人参加) ※オンライン含む
- オープンキャンパスを開催(2020~2023年度実績: 39,718人参加) ※オンライン含む
- 同志社合同学校説明会を協力開催(2020~2023年度実績: 1,127人参加)
- 進路指導担当者対象入試説明会を全国5都市で開催(2020~2023年度実績: 888人参加)
- 中高教員対象3大学(同志社大学、国際基督教大学、国際教養大学)合同対話型パネル・ディスカッションを開催
- 他大学との合同説明会・相談会を各種開催
- 入学前の大学からのお知らせや各種手続き・申請を案内する入学前サポートサイトの運用開始
- 日本留学フェア(ソウル、釜山、全世界配信の英語オンラインフェア)および国内外での説明会等、外国人留学生入試を対象とした広報活動の実施

achievement 3

Pickup DIVER-SITY 高校生を対象に「わたしのサイエンスプロジェクト」を展開

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択された「科学するガールズ」養成プログラムが2022年度に終了し、2023年度からは「わたしのサイエンスプロジェクト」として新たにスタートしました。サマーキャンプでは教員と学生スタッフ(大学院生および学部生)の指導のもとでの実験体験や、女子中高校長(担当教科:数学)による「理系選択」に関する講義、理系女子学生や海外の研究者・エンジニアや本学在学中の女子留学生との交流会も行いました。また、夏のオープンキャンパスに合わせてサイエンスカフェを企画しました。企業で活躍する女性エンジニアによる理系進路およびキャリアについての学びを提供し、理系女子学生とのフリートークによる交流を通して進路選択のサポートを行いました。秋には実験体験ラボを開催し、「好奇心」理系の学びと日常生活の繋がり」をキーワードに情報系と化学系二つのプログラムを実施しました。理系分野の学びに触れる機会を設け、理系選択における疑問や戸惑いを解消し、真に希望する進路を選択できるよう支援を続けています。

achievement 4

「スポーツ・健康科学研究」を通して学力の3要素を育成する高大接続プログラムの開発とその強化

「スポーツ・健康科学研究」を通して高校生と本学部生の学力の3要素(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学習する態度)を育成するプログラムの開発とその強化をめざすプログラムです。スポーツ系の学科・専攻のある京都府の6高校で実施しているスポーツ・健康科学に関連する卒業研究をサポートする体制を構築し、その活動を通じて高校生と交流を深めながら教育・研究活動を行うPBL(Project based learning)を導入しました。さらに卒業研究を質的かつ直接評価できるパフォーマンス評価方法の開発などにより、学力の3要素がどの程度身についたかを卒業研究に取り組む前後に客観的な定量ツール(PROGテスト)とループリックを用いて診断・評価しています。本プログラムの展開によって、生徒と学生双方の探求心や自主性の向上が図られ、高大の教員の教育力向上にも寄与でき、高校から大学への学力の3要素を涵養する一貫教育モデルの確立が期待できます。

「国際主義」の更なる深化

真のグローバルマインドを持つ人物の養成にむけて、海外渡航を含む多様な学びの経験を持つ学生数の増加や同志社大学での学びを希望する質の高い外国人留学生受入数の増加をめざします。また、グローバル化推進事業の中でも、特に創立150周年記念の事業の1つとして展開している「『国際主義』の深化に向けた『人を植ゆる』の事業」に注力しています。



achievement 1

同志社創立150周年記念事業

—「国際主義」の深化に向けた「人を植ゆる」の事業—

2025年に迎える創立150周年記念の諸事業の1つとして、創立200周年を見据えた「人を植ゆる」



の事業を展開しています。新島は、真のグローバルマインドを、多様性と異質性の中でその違いを積極的に認めあい、どのような他者も隣人として愛する精神に求めました。この精神に立って、1. アーモスト大学と同志社大学とのより緊密な連携を支える「架け橋となる人物」の養成、2. EUキャンパスを設置するチュービンゲン大学と同志社大学との発展的な信頼関係を築くことのできる「『特別な友人』となりえる人物」の養成、3. アジアの多様性が

ら学ぶ「ダイバーシティ推進に寄与できる人物」の養成の3つのテーマを目標として掲げています。具体的事業として、アーモスト大学との教員交換協定締結、同大学エリオット新学長の就任式への登壇、チュービンゲン大学同志社日本研究センター30周年記念事業の開催、同大学ホルマン新学長への名誉文化博士学位贈呈、ACUCA (Association of Christian Universities and Colleges in Asia) の幹事への就任等があげられます。

achievement 2

ACUCAの幹事校就任に伴う国際交流事業の実施

ACUCAは、アジアのキリスト教主義大学22校により、キリスト教主義教育の質の向上と相互連携を目的に1976年6月に設立された協会です。それまで20年以上行われていた United Board for Christian Higher Education in Asia (United Board) の学長会議がACUCAを生み出す一つの契機となったといわれています。2023年現在、ACUCAには8か国・地域の64機関が加盟しており、日本では15校(桃山学院大学、国際基督教大学、関西学院大学、明治学院大学、西南学院大学、南山大学、同志社大学、青山学院大学、桜美林大学、大阪女学院大学、広島女学院大学、神戸女学院大学、北星学園大学、東京女子大学、フェリス女学院大学)の加盟となっています。2024年から2025年までは本学がACUCA幹事校を務め、Presidentには同志社大学長が就任しています。また、ACUCAと学生交換協定を締結し、ACUCAが実施するStudent Mobility Schemeのもと、加盟校との学生交換を実施する体制を整えました。



achievement 3

AKP同志社留学生センター50周年記念行事への参画

Associated Kyoto Program (AKP) は1972年にプログラムを本学で開始してから、2022年で50周年を迎えました。AKPは、アメリカの大学における日本留学プログラムとしては最も長い歴史を持ち、開始以来、今出川キャンパスにおいて、日本文化と社会に深く根ざした留学体験の場を提供しています。AKP50周年記念誌の編集に参画し、

2022年9月に、AKP理事長およびセンター所長としてプログラムの発展と本学との交流促進に尽力されたウィットマン大学名誉助教授のアキラ・ロナルド・タケモト氏に同志社大学名誉文化博士を贈呈しました。50周年の節目の行事を通じて、AKP加盟大学と本学の友誼と交流の歴史を振り返り、絆を確かめ合う機会を得ることができました。

achievement 4

国際教養教育院の組織再編

グローバル教育センターと日本語・日本文化教育センターを一つの組織に再編し、2024年4月から国際教養教育院として運営します。新時代の教育・学習ニーズに適った教育プログラムを開発・提供すること、留学生同士の、あるいは国内学生との共修環境向上も含めた教育・学習環境の一層の充実を図る組織体制を築くことを目的としています。再編により、組織の意思決定・運営の改善、留学生



(特別学生)受入責任部署の一元化、そしてニーズに即応した新しい横断型教育プログラムの協働開発体制を構築します。

Other achievements

- 大学間交流協定大学の拡充(46カ国・地域213大学)
- 学生交換協定大学の拡充(37カ国・地域175大学)
- 大学院生対象「日本語ライティングサポートWEEK」開催
- 留学生生活応援(仕送り)便プロジェクトの実施
- 駐日欧州連合代表部との共催イベント「欧州留学フェア2023」の実施
- 留学Learning Weekの開催
- SIED(Student Staff for Intercultural Events at Doshisha)における国際交流イベント

- 留学生就職支援コンソーシアムSUCCESSへの加入
- チュービンゲン大学との交流事業DOSHISHA WEEK 2020、2021、2022開催(オンライン、対面再開)
- 同志社大学・チュービンゲン大学共催 第4回国際シンポジウムの開催
- アストリッド・ベルギー王国女王殿下来訪
- トマスモア応用科学大学と教員交換協定締結
- Frank-Walter Steinmeierドイツ連邦共和国大統領来訪

ブランド戦略の展開

SNS等を活用した情報発信をはじめ、様々なメディアで広報活動を展開。また、同志社大学の魅力を体現する卒業生に焦点をあて、大学での学びが成長の糧となり、社会での活躍、卒業生同士の交流など、生涯にわたる大切な絆となって深まる活動を展開していきます。



achievement 1

公式Webサイトリニューアル

安全かつ安定的な情報発信体制の構築、ユーザビリティ(使いやすさ)の向上ならびに、本学のブランド価値の向上を目的としたリニューアルを実施しました。見やすく、使いやすいサイトを構築するために、アクセシビリティへの配慮(ユニバーサルデザイン)、スマホ完全対応をはじめとするサイト閲覧者の利用環境やデバイスにあわせた表示、



グローバル(日英)対応および情報構造を整理しました。また、本学の魅力を伝達することを目的に、サイトデザインのリニューアルとあわせサウンドメディアを新設しました。新サウンドメディアの「D'iscover」では、教員・研究者による学術研究の発表から、学生のキャンパスライフの様子などを網羅した「同志社を発見」する項目を「Opinion(研究・オピニオン発信)」「Campus(学生の「いま」を伝える)」「History(同志社の歴史)」の3カテゴリで構成し、魅力ある「人物」を通じて共感と呼ぶメッセージ性の高い最新コンテンツを発信します。

achievement 2

大学や学部・研究科の公式Webサイトとの連動をコンセプトとする『大学案内』の全面改訂

受験生世代を中心に情報収集のツールが紙媒体から電子媒体に移りつつある状況に鑑み、冊子とWebサイトの両媒体が双方向性を有した有機的なコンテンツとして連携する『大学案内』に改訂しました。今回の改訂では、①冊子で紹介する内容とWebサイトで紹介する内容について明確なすみ分けを行い、②冊子はスリム化を図りつつ、情報の網羅性を保持した上で随所にQRコードを設けてWebサイトや同志社公式アプリ、SNS等に誘導し、さらに、③Webサイトでは冊子では

表現できない、大学の重視する価値観、大学での学び、学生生活等についてイメージできる独自コンテンツを展開し、本学の魅力がこれまで以上に伝わるものとなっています。



Other achievements

- [募金]・同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金
- [スマホ対応]・大学案内アプリをリリース
- [メディア対応]・首都圏のマスコミ関係者を対象に東京サテライト・キャンパスでメディアセミナーを実施(2020、2021年)
- [音声メディア展開]・KBS京都ラジオ「さらピン!キョウト」に本学教員が出演(毎月第一週目3時間)
- [TVメディア展開]・中京テレビお天気ファイヤー放送(2020~2022年)
- [ネットメディア展開]・私大連公式 YouTubeチャンネル「学長ときどき私」
- [ターゲット特化広報]「インターハイ応援メッセージ」音声動画の配信(2017~2022年)

[出版物]

- ハンケイ500m 踏み出せ!「ガクモン」の未来 大学ラポ 最前線(2022年4月~年7回出演)
- 檸檬新報「緑陰インタビュー」学長植木朝子
- 「同志社大学×宇宙兄弟」タイアップ企画による同志社大学宇宙生体医工学研究プロジェクトの紹介記事を掲載
- JapanTimes「学長インタビュー」植木朝子

[新聞全国紙・広告特集記事等]

- 朝日新聞「大学力」シリーズ
- 朝日新聞「男女共学実施100周年記念事業」
- 読売新聞「大学SELECTION」シリーズ
- 朝日新聞「これからの大学教育はどうなる?」植木学長・藤えりか(朝日新聞経済部兼GLOBE記者)対談
- 読売新聞「直木賞受賞記念鼎談」澤田瞳子・門井慶喜・学長植木朝子
- 日本経済新聞「ダイキンス同志社「次の環境」センター」
- 日本経済新聞「リーダーの本棚」植木朝子
- Japan Innovation Review特集「女性リーダーが描く新時代」

achievement 3

「同志社創立150周年記念事業(大学事業)」ブランド戦略の展開「志 その先へ」

学生生活を通じてその校風に触れ、社会の中で「一国の良心となる可き人々」として役割を担う卒業生は、本学が誇るブランドそのものです。創立150周年を機会に、様々な分野で活躍する卒業生を訪ね、本学での学びがそれぞれの「今」にどのように息づいているのかをレポートする企画「志その先へ」では、「同志社」を体現した人たちの「今」を通して「同志社」を振り返るとともに、本学がこの先に求めるべきものを見つけるきっかけとします。各学部・研究科から卒業生に当企画への協力を仰ぎ、「学生時代の思い出やエピソード」、「学生生活を通じて学んだこと」、「社会に出てからも生きていること」を対談形式でお話いただくなど、充実した内容をWebサイトの動画で提供しています。

achievement 4

研究成果の積極的発信

カーボンリサイクル等の環境関連の研究や、人工血液等救命救急医療関連研究など、一般社会からの関心が高いトピックに加え、JAXA(SORA-Q:変形型月面ロボット)、NTT西日本(生成AI活用実証事業)、TOYO TIRE(包括協定締結)、コマツ(紙質AI識別アプリ)等、企業連携に関する事業広報を積極的に発信しています。公式Webサイト、SNS、You Tube、ラジオ番組、冊子、プレスリリース、記者会見など多様なメディアを通じてプレゼンスの向上を図っています。



150th anniversary Commemorative Project

〈150周年記念事業〉進み続ける同志社、4つの大規模建設



1 継志館(教育寮)

2021年9月始動

人種、性別、障がいの有無、文化等の様々な違いや背景を持つ学生が過ごす同志社大学初の教育寮。多様な価値観を理解し、その違いを新たな創造へ導く力を持つ人物の養成をめざします。また地域社会との関わり等を通じた実践学習に参加し、その成果の発表や振り返りを通して自己の成長を確認する取組として、継志寮では寮生全員が参加するResidential Learning Program(RLP)を設けています。

2 今出川新図書館

2026年秋完成予定

およそ50年にわたり、数多くの学生から愛された今出川図書館。新図書館では、その本質的使命を維持、発展させると共に、変遷する時代の課題や要請に柔軟に応え、多様な利用者の主体的学びを支援する開かれた場を提供します。また外観は煉瓦積みをはじめとする重要文化財建築物に見られる同志社らしい意匠を踏襲することにより、本学の歴史・知の集積を象徴し、これからの同志社の歴史を紡ぐ、新たなランドマークとなることをめざします。



3 スポーツ・コンプレックス

新アリーナ:2026年春完成予定
多目的コート:2027年春完成予定

正課およびその両輪となる正課外活動の充実と発展、学生や教職員、法人内諸学校関係者、卒業生および地域住民などステークホルダーの健康・体力の維持・向上への貢献、さらにスポーツを通して自治体や企業と産官学連携を推進するべく、京田辺キャンパスに新たなスポーツの拠点を創出します。



4 京田辺キャンパスリニューアル

計画中

1986年、総面積79万㎡の広大な敷地に京田辺の地に開講された京田辺キャンパス。現在、6学部6研究科の約9,000人の学生が学んでいます。今回、既存の教室棟を最新設備に更新することにより新しい学習空間で、学生の知的好奇心の向上をめざします。また学生が集いやすい自由な雰囲気のある空間や、学問分野や国籍の垣根をこえた人との出会いにより多様な価値観を創造することのできる、コミュニケーションの拠点となるような空間の創出をめざしています。



学びとの出会い、人との出会い、世界との出会い…。同志社大学には、踏み出す一歩を応援する、数々のきっかけと、挑戦し続ける仲間がいます。VISION2025は自らの夢に向けて躍動する学生を応援しています。

未来を切り拓く学生たち

STUDENT'S VOICE

博士課程

平井 向日葵さん

脳科学研究科 発達加齢脳専攻
シナプス分子機能部門



スキルアップしてめざすのは、「生命の不思議」を解明する研究者。

生命医科学部時代に取り組んだ、神経の電気活動を記録する実習が私にとってのターニングポイントでした。講義で習った事象を目の当たりにできたことに感動し、自分の手で生命の不思議に触れたいと思ったのが進学を決め手になりました。大学院では、次世代研究者挑戦的研究プロジェクトという支援制度のおかげで、研究に集中

して取り組んでいます。金銭面に加えて、英語での論文執筆やプレゼンテーションなどの研究基礎力向上のサポートがあることもありがたいです。また、制度の一環として受講したアドバンス・リベラルアーツ科目では、異分野の院生や社会人と持続可能な社会を実現するための技術開発について議論をする機会もあり、広く鋭い視点を知る

きっかけになりました。将来の目標は、神経細胞における未知の仕組みを明らかにすること。そのために、研究者になる上で必要となる能力をさらに磨き続けていきたいと思っています。

STUDENT'S VOICE

同志社データサイエンス・AI教育プログラム(DDASH)

津島 克洋さん

経済学部 経済学科



専攻外のAI・データサイエンスを使いこなし、自分の武器に。

DDASH科目受講のきっかけは、「AIやデータサイエンスが目される世の中で、役に立つだろう」という漠然とした考えでした。2年間学んだ現在は、データを適切に読み解き意味を抽出する能力や、AIを活用し課題解決につなげるスキルが習得できたと実感しています。「AI基礎」の授業では、悪用等の倫理的課題やAIにとって必要不可欠な電

力の確保に関わる環境問題など、テクノロジーの副作用について取り扱う事も。我々の生活を豊かにしてくれるAIやデータサイエンスの負の側面も考慮し、「良心」の視点からも捉える必要があることを知りました。

きっかけは漠然としたものでしたが、リテラシーから応用スキルまで多様な科目を受講していく中

で、この分野の面白さに夢中に。応用基礎レベルを終えた現在は、専門レベルでの体系的な学びが可能なDDASH副専攻の受講を考えています。身につけたスキルや知識を武器にして将来の選択肢を増やせるように、残り2年間でさらに学びを深めたいです。